

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇2016 日本建築学会大会（九州）

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（19）

木下 清隆

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇2016 日本建築学会大会（九州）

8月24日から26日まで、建築関係の祭典である日本建築学会大会が福岡大学で開催されました。大会は、先生、生徒、企業、市民などの参加者が3万人に達する大きな大会です。VECは、樹脂サイディング、樹脂窓の普及のために塩害や硫化水素害、室内温熱環境の比較試験研究を大学と行っており、その発表をしていただきました。どのセッションも満席に近い状態で、近年注目を浴びている環境工学の温熱環境のセッションは人があふれていました。盛んに質問が飛び交い、関心度の高さを感じました。また、企業からの発表が増えてきているように感じました。ここでは、その中の数セッションを紹介致します。



一つは、VECが2010年より九州大学小山研究室に委託して研究した、火山性ガス地帯での塩ビサイディングによるコンクリート保護効果の4回目の発表です。これは、保護している樹脂サイディングをラマン分光法他で試験評価したものです。外観、色差、ラマン分光とも5年間では大きな変化は認められませんでした。樹脂サイディングは、硫化水素に強いサイディングであると考えられます。

住宅の快適性と省エネルギーに関する研究では、興味深いアンケート調査結果として、夏季は通風を取り入れないと快適性は得られないというものがありませんでした。中間期も同様です。従って、設計段階で換気や風の通る窓配置、部屋配置を考えて作らないと快適性と省エネは両立しないと示唆されました。

脳卒中と住環境については、山形郡部の住宅の住環境をアンケート調査したところ、浴槽等が和式であり住宅の気密性能の低さがわかりました。また、居間の温度が15度を下回ると収縮期血圧が上昇する可能性が示唆されました。高齢者の住まう住宅環境の調査においては、換気と湿度調整が出来ていない施設が多いことがわかり、特に加湿設備導入が必要とされました。

ZEB/ZEH も注目を集めていました。大学から発表された論文は ZEH 関連が、企業からの発表論文は ZEB 関連が多く出されました。この傾向から感じることは、これからの日本の建築物の省エネルギーを考えたときに、施主がほぼ法人である事務所や商業施設の方が、法的な対応で先行して実現でき、個人施工主の住宅はそれを受けて進む流れがあることがこのセッションから感じられました。また、施工する主たるゼネコンが積極的に研究を行っている状況を見ると、近々に非住宅建築物は着実に ZEB に向かって行くと思われました。

建築分野は塩ビの大きな需要分野です。建築関係者の方々と素材側が相互理解を深めることは重要であり、更に、異業種の方々との交流を深める観点でも学会活動が有意義であることが感じられました。

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（19）

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回紹介したように、神武東征の話の中で、この東征に参加した久米氏、大伴氏等の有力武将達が畝傍山の山麓付近に宅地を賜った話が、日本書紀に記されている。このことから、天日別命が耳成山の近くに宅地を与えられた話は、伊勢国造家の実在性を窺わせるものと考えられるが、この場合、天日別命が伊勢から追い出した伊勢津彦命こそが、伊勢国造家の祖であると言うことである。今回は、更に伊勢と出雲の関係を探る。

5) 風土記の別の逸文から、伊勢国には出雲系の神々が存在している。

— この問題を検討するために風土記逸文のこの箇所を再掲する。

「伊勢と云ふは、伊賀の安志あなしの社に坐す神、出雲の神の子、出雲建子命いずもたけこ、又の名は伊勢都彦命いせつひこ、又の名は櫛玉命なり。此の神、昔、石もて城を造りて此に坐しき。」

先ず、この中で【伊賀の安志あなしの社に坐す神】とはどのような神なのかを明らかにする必要がある。風土記の伊賀の安志社とされる神社は、明確には伝わっておらず、現在の穴石神社（阿山町）或いは都美恵神社（柘植町）ではないかとされている。森川桜男氏は『日本の神々6』の中でこれらの神社の解説をおこない、更に

「『伊勢国風土記』のもう一つの逸文によれば、伊勢津彦は伊勢国の土着神で、天日別命に国を譲って、大風を四方に起こし、光輝いて東へ去ったとあり、これが「神風の伊勢国」という古語の由来であると記されている。このことから伊勢津彦の代表的神格は風神と考えられており、また一般に「アナシ」は北西の季節風のことといわれているが、アナシは元来「アラシ」の古語で、吹く方向には必ずしもかわりのない言葉であったとする説もある。したがって当地では北東の季節風を「アナシ」と呼んでいた可能性があり、しかも柘植の地は伊勢から伊賀への入口にもあたっている。」

いずれにしても伊勢津彦と櫛玉命とは出雲の神であると人々が理解していたことは重要な意味がある。更に別風土記が述べている重要なことは、これらの神が伊勢から意識の上で追放されているということである。また、この伊勢と出雲との関係は、別風土記だけでなく『倭姫命世記』の中にもこれを示唆する個所がある。その部分を和田嘉寿男氏の『倭姫命世記注釈』から引くと、

「それより幸行して、奈尾之根宮に坐しまし給ふ。時に出雲神の子吉雲建子命、一名は伊勢都差神、一名は櫛玉命、並びにその子大歳神・桜大刀命・山神大山罪命・朝熊水神等、五十鈴の川後の江にて御饗奉りき。」



齋宮屋外模型

— 神宮創建当時、五十鈴川の畔に建てられたとする齋宮は、その後、櫛田川の近くに遷されている —

と出ている。この個所は天照大神と倭姫命がいよいよ最後の五十鈴川の辺に着く場面である。ここで、出雲の神々が突然のように登場し、天照大神に御饗を奉ったというのである。更に、別の場所に

「因て齋宮を宇治の県五十鈴の川上の大宮の祭に興て、倭姫命をして居さしめたまふ。……次に櫛玉命・大歳神・大山津見山神・朝熊水神等饗奉る。」

とあり、ここでは天照大神が伊勢の地に落ち着いた後、倭姫命が居住する齋宮が近くに建てられたこと、更に出雲の神々が再度現れて御饗を奉ったことが述べられている。

この二つの文は、出雲の神々が伊勢ではなく天照大神に直接何か関係していることを主張している。更に驚くべきことはこれら出雲系の神々のうち、大歳神・桜大刀・大山津見山神・朝熊水神は内宮の摂社に祭られているのである。伊勢津彦と櫛玉命が祭祀されていないのは、意識の上では彼らが伊勢から追放されていることを示していると解釈されよう。なぜ、出雲の神々が天照大神と関係があるのかは分からない。しかし、主張のような関係があるとすれば、これは大きな謎である。この謎は後半部分で取り扱うことにするが、いずれにしても伊勢と出雲には何か深い関係があるようである。

以上で風土記の検討を終えるが、ここで論議した内容を整理すると次のようになろう。

- ① 神武天皇に従って東征に参加した者の中に出雲出身者がいた。その孫が何らかの理由で伊勢に入ったが、その初代と目される人物がその後、伊勢津彦と称されるようになり、更にその後裔が伊勢国造となった。
- ② 伊勢国造家は『伊勢国風土記』を撰述するときに、天日別命を彼らの祖として新しく創作し、その祖伊勢津彦を意識の上で追放してこの命と入れ替えた。その理由は明らかではないが、何か政治的な理由があったものと考えられる。
- ③ 櫛玉命は出雲系の神として、伊勢で祭祀されるようになったが、その時期は後の伊勢国造家が伊勢に入った時代より後である。この時期に櫛田神社は創建されたことになるが、いつの時代なのかは風土記からは特定できない。
- ④ 伊勢氏と度会氏との間には何らかの関係があるとみられるが、風土記の内容からこれを明らかにすることはできない。

櫛田神社の創建時期を推定するための検討を進めてきたが、その時期を特定することは出来なかった。ただ、以上のような風土記の検討から出てきた重要な結論の一つは、天日別命は新しく創作された神ではないのか、との疑問である。この点については更に検討してみることにする。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先日、東京ビッグサイトの建材フェアに行ってきました。会場の入り口すぐに樹脂窓の展示と性能紹介が行われており、その中には窓の反対側をドライアイスで冷却し、手で触って冷たさを実感するという展示がありました。窓枠部分を触ってみましたがほとんど冷たさを感じず、樹脂窓の断熱性を実感した次第です (Kamiki)。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp